

東臼杵南部地域の普及活動（普及活動月報）

令和8年8月 東臼杵農林振興局
(東臼杵南部農業改良普及センター)



東臼杵南部農業改良普及センター
ホームページ

目次

I	管内農業・農村の出来事や新たな動き	(P 2)
1	【全域】普通期水稻品種「ひなた舞」の生育確認	
2	【諸塚村・椎葉村・美郷町】ラナンキュラスの定植期の管理について指導	
3	【椎葉村】椎葉村農業技術員会	
II	主な普及指導活動等の取組	
1	地域プランに基づく普及活動	(P 3～5)
1	【日向市・諸塚村】法人経営体への経営支援	(施策1:水田農業の確立)
2	【美郷町】JAみやざき日向地区本部冬春ミニトマト部会美郷支部定例会の開催	(施策2:園芸産地の確立)
3	【日向市】Dプロ実績検討会を開催	(施策2:園芸産地の確立)
4	【日向市】JAみやざき日向地区本部促成胡瓜部会実績検討会の開催	(施策2:園芸産地の確立)
5	【日向市・門川町・美郷町】新規就農者3名の経営開始を支援	(施策2:園芸産地の確立)
6	【全域】就農に向けた収支計画作成研修会を開催	(施策2:園芸産地の確立)
7	【全域】労務管理セミナーの開催	(施策2:園芸産地の確立)
8	【全域】農業者研修「ベーシック研修」の開催	(施策2:園芸産地の確立)
9	【門川町】農福連携の現地検討会を実施	(施策2:園芸産地の確立)
10	【全域】日向地域営農推進連絡会議「雇用労力」担当国会議を開催	(施策2:園芸産地の確立)
11	【美郷町】金柑部会が産地一体となった経営承継を協議	(施策3:果樹の産地体制づくり)
12	【美郷町】若手和牛繁殖経営者を巡回指導	(施策4:肉用牛産地の維持)
2	地域課題一覧に関する普及活動	(P 6)
1	【美郷町】スイートピー新品種「試交30号」の現地実証打ち合わせの実施	
2	【美郷町】美郷町栗部会出荷目揃え会の開催	
3	【美郷町】シキミ立枯症対策として、フルボ酸資材の試験的散布を実施	

I 管内農業・農村の出来事や新たな動き

1 【全域】普通期水稻品種「ひなた舞」の生育確認

17日から随時、管内のひなた舞作付ほ場の出穂状況及び生育状況を確認しました。

出穂は、5月下旬に田植えをしたほ場では17日頃、6月中旬に田植えをしたほ場でも26日頃までに見られており、ヒノヒカリよりも出穂が遅いという特性や、穂が長く収量が多いという品種の特徴が確認されました。

8月末時点の生育は、一部で虫害が見られましたが、それ以外には目立った障害はなく概ね順調です。今後、10月に坪刈りと収量調査を行います。

ひなた舞は、ヒノヒカリより多収で高温に強いため、収量や品質の向上が期待される品種で、管内でも昨年度から試験栽培に取り組んでおり、今後も普及拡大を図っていきます。



【出穂したひなた舞】

2 【諸塚村・椎葉村・美郷町】ラナンキュラスの定植期の管理について指導

27日、JA諸塚支店で諸塚村、椎葉村、美郷町の生産者3名、関係者7名が出席し、ラナンキュラス栽培講習会が開催されました。

普及センターからは、球根冷蔵の処理上の注意点と定植後の腐敗対策について説明しました。

椎葉村では、既に球根冷蔵処理を開始していることを受け、生産者間でも、球根腐敗を最小限に抑え、切り花本数の増加につなげられるよう活発な情報交換が行われました。

3 【椎葉村】椎葉村農業技術員会

25日、椎葉村・JAの関係者5名で、椎葉村農業技術員会を行いました。

村内の夏秋ミニトマトやほうれんそう等の生育状況と販売の中間実績について情報が共有されました。

また、令和9年3月に宮崎県で開催予定の七草全国交流会に関する内容や予算の打合せを行いました。

II 主な普及指導活動等の取組

1 地域プランに基づく普及活動

1 【日向市・諸塚村】法人経営体への経営支援

10日に諸塚村の農事組合法人を対象に、経営実績の品目ごとの分析、24日及び26日に日向市の農事組合法人からの要請で専門家派遣に向けたヒアリングを、普及センターで行いました。

今後、関係者や専門家を交えた経営体支援活動を継続して実施し、法人経営の課題解決に向けて積極的に取り組んでいきます。

2 【美郷町】JAみやざき日向地区本部冬春ミニトマト部会美郷支部定例会の開催

24日、JA西郷支店で生産者8名、関係者9名が出席し、支部定例会が開催されました。

販売担当者から人件費増加に伴う選果料金の値上げの説明のほか、普及センターからトマトキバガの県内の誘殺数等の情報や農薬適正利用について啓発を行いました。

令和9年産の栽培がスタートすることから、生産者間では、定植時のコナジラミ対策など活発な意見交換が行われました。

3 【日向市】Dプロ実績検討会を開催

5日、JA美々津支店で、生産者3名と関係者3名が参加して令和8年産施設きゅうりにおけるDプロ※実績検討会を行いました。

会では、令和8年産の10aあたりの日ごとの出荷量を基に振り返りを行い、各生産者の課題と令和9年産目標収量に向けた取組の確認を行いました。

データ活用のメリットを活かして、目標収量の達成とその技術の波及やDプロ参加者のさらなる広がりを目指し、来作も関係者と協力して支援していきます。

※Dプロ「施設園芸のデジタル化プロジェクト」

4 【日向市】JAみやざき日向地区本部促成胡瓜部会実績検討会の開催

26日、JA日向地区本部で生産者8名、関係者4名が出席し、施設胡瓜実績検討会が行われました。

JAみやざき本店や種苗会社から令和8年産の振り返りと来作に向けたアドバイスがなされた後、JA担当から部会の優良事例が紹介されました。

普及センターからは栽培暦の変更点を説明し、農薬適正使用について啓発を図りました。来作に向けて目標を共有し、部会と関係者が一丸となって、目標達成を目指します。



【きゅうりの実績検討会】

5 【日向市・門川町・美郷町】新規就農者3名の経営開始を支援

4日、6日及び24日、管内の新規就農者等3名を対象に、関係者と連携し、栽培管理や経営に関する個別支援を行いました。

第三者承継により果樹経営を開始した日向市と美郷町の新規就農者に対しては、青年等就農計画の認定に向けた収支計画の作成を支援するとともに、活用可能な補助事業を検討しました。

また、中古ハウスを活用して養液栽培で就農した新規就農者に対しては、定植に向けた準備状況や今後の生産計画を確認し、作業性改善につながる通路幅の確保等について助言しました。

今後も関係者と連携し、それぞれの課題に応じた支援を行い、円滑な経営開始と早期の経営安定を後押ししていきます。



【定植準備の状況確認】

6 【全域】就農に向けた収支計画作成研修会を開催

25日、普及センターで、新規就農者及び就農希望者5名と関係者7名の計12名が参加し、就農計画作成に向けた収支計画作成研修会を開催しました。

普及センターから、計画作成の目的や青年等就農計画の認定までの流れを説明し、Excelで作成した支援ツールを用い、収支計画の作成演習を行いました。

また、振興局農政担当から、新規就農者向けの補助事業や資金について説明しました。

研修では、自分自身の立場だけでなく、支援側の市町村や融資機関の視点を踏まえ、説得力のある実現可能な計画を作ることの重要性を伝えました。

今後は、参加者の目指す経営収支計画の完成や青年等就農計画の作成に向け個別に支援していきます。



【収支計画作成研修会】

7 【全域】労務管理セミナーの開催

4日、普及センターで、農業者2名、関係機関6名が出席し、農業会議が主催する労務管理セミナー（基礎編）をオンラインで開催しました。

労務管理は、人材確保には欠かせないスキルであり、雇用における基礎知識と関連法の改正点について学ぶことが出来ました。

熱中症等、労務災害リスクが高まる中、農業における労務管理の重要性について継続して発信していきます。



【労務管理セミナー】

8 【全域】農業者研修「ベーシック研修」の開催

7月から8月にかけて、普及センターで「宮崎方式営農支援体制農業者研修『ベーシック研修（オンライン）』」（全11回）を開催しています。

今月は、下記の7回※を実施し、延べ22人が参加しました。

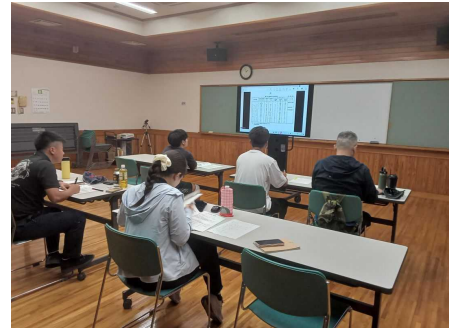
普及センターでは、研修の機会を提供し、多岐にわたるカリキュラムから必要な基礎知識を学んでいただき、農業経営者のスキル向上に繋がるよう、引き続き支援を続けていきます。

※3日「経営基礎」（3名）、10日「植物生理」（3名）

19日「農地制度、農業者年金」（3名）

20日「GAP」（2名）、25日「雇用確保、労務管理、農業共済」（4名）

26日「病虫害防除」（4名）、28日「マーケティング」（3名）



【植物生理研修】

9 【門川町】農福連携の現地検討会を実施

19日、門川町の各ほ場で、トマトときゅうりの生産者各1名、日向市内の福祉事業所3か所、関係者の計8名で農福連携のマッチングに向けた現地検討会を実施しました。

その結果、トマトでは9月中旬から約7日間隔で栽培後の片付け作業の実施が決定し、きゅうりでは9月中旬に摘葉作業の現地体験会を実施した上で、対応を検討することになりました。

門川町ではその他にも農福連携に興味を示す農業者が複数おり、今後は福祉事業所と連携しながら対応の調整を行います。



【農福連携現地検討会】

10 【全域】日向地域営農推進連絡会議「雇用労力」担当者会議を開催

27日、普及センターで関係者14名が出席し、日向地域営農推進連絡会議「雇用労力」担当者会議が開催されました。

会議では、県担い手農地対策課から、県内外の農業分野における雇用労力の現状や課題についての説明や、市町村からは、各地域の雇用労力確保に関する課題の報告があり、活発な意見交換が行われました。

また、普及センターからは、今年度、門川町で実施している多様な雇用人材の活用に向けた取組の状況について説明を行いました。

11 【美郷町】金柑部会が産地一体となった経営承継を協議

20日、JA西郷支店で、美郷町さいごう完熟金柑部会の役員、関係者の計10人が出席し役員会が開催されました。

会では、先月実施した個別面談結果を共有し、産地一体となった経営承継について協議しました。多くの部会員が経営承継を予定していることから、今後は部会と関係者で連携を図り、計画的に取り組むことになりました。



【金柑部会役員会】

12 【美郷町】若手と牛繁殖経営者を巡回指導

10日、美郷町の若手経営者1名を対象に、関係者3名で繁殖巡回を実施しました。

現場では、NOSAIから自給飼料の品質が受胎率の低迷に影響している可能性が指摘され、普及センターからは、良質飼料生産のために適正施肥の重要性や、飼料用稲の収穫適期判断について説明しました。

対象者からは、「飼料用稲の収穫適期を子実の硬さで判断することは知らなかった。刈り遅れは飼料品質にも影響するため、次から実践してみたい。」との意見があり、飼料の品質改善に向けて高い意欲が感じられました。

2 地域課題一覧に関する普及活動

1 【美郷町】スイートピー新品種「試交30号」の現地実証打ち合わせの実施

25日、美郷町南郷で、農業試験場が開発した新品種について、実証農家と現地実証計画の打ち合わせを行いました。

打ち合わせでは、定植時期や調査項目等の整理を行い、今後、発蕾や落蕾の状況のほか、収穫時の切り花品質評価等についても、確認することになりました。

2 【美郷町】美郷町栗部会出荷目揃え会の開催

19日、JA西郷栗選果場、中区改善センター及びJA美郷南郷支店で、美郷町栗部会の生産者52名、関係者3名が参加し、くりの出荷目揃え会が開催されました。

JAから出荷要領等の説明が行われた後、普及センターから収穫時の注意点、台風被害があった場合の事後対策について説明を行いました。

生産者はサンプルの果実を見たり、触ったりしながら、選別基準を確認していました。

今年は8月26日から選果場での出荷受入が始まりました。今作は生理落果が少なく、やや小玉傾向ですが、前作同様、着実数は多く、実りの秋を迎えています。



【栗出荷目揃え会】

3 【美郷町】シキミ立枯症対策として、フルボ酸資材の試験的散布を実施

5日、美郷町南郷のシキミほ場で、生育促進効果を確認するため、フルボ酸資材の散布を行いました。

散布対象樹は、樹勢が衰えているものを目視で選定し、約1か月後の状況を確認する予定です。

今年度は、予備調査として達観で樹勢の変化等の把握を行います。



【フルボ酸資材散布状況】